

## ⑫ 公開特許公報(A)

平3-28084

⑤Int.Cl.<sup>5</sup>  
B 62 D 25/00識別記号  
庁内整理番号  
7816-3D

⑬公開 平成3年(1991)2月6日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全2頁)

⑭発明の名称 自動車のボデー

⑯特 願 平1-163168

⑰出 願 平1(1989)6月26日

⑱発 明 者 松 本 卓 也 石川県金沢市黒田2丁目228

⑲出 願 人 松 本 卓 也 石川県金沢市黒田2丁目228

⑳代 理 人 弁理士 宮田 正道 外1名

明 細 書

## 1. 発明の名称

自動車のボデー

## 2. 特許請求の範囲

(1) ボデーを電流によって発光する素材で形成したことを特徴とする自動車のボデー。

(2) ボデーのうち、フェインダー部を電流によって発光する素材で形成したことを特徴とする自動車のボデー。

## 3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は自動車のボデーの構成に関するものである。

(従来の技術)

従来の自動車のボデーは鉄板で形成したものであり、前面、後面及び前方フェインダー部に照明ライト、車巾燈、方向指示燈及びブレーキ燈等を取り付けた構成としてある。

(発明が解決しようとする課題)

従来の自動車では、進路変更や右左折の時の合

図は自動車の前後面下部及びフェインダー部に設けた指示燈によって行うのであるが、その指示燈の表面反射部分の大きさは小さく、点滅によって周囲の注意を喚起している。

指示燈の表面反射部分の大きさ(面積)は広いほど好ましいのであるが、車のデザイン上制限を受けるのである。

又、夜間に車の存在を知らせる車巾燈等も表面反射部分の大きさも最少限のものとなっており、共に、車の全体の大きさが遠方から確認できず、事故等の原因となることもある。

そこで本発明は、夜間に於ける車の存在及び周囲への各種合図をより確実容易に行えるように改良したものである。

(課題を解決するための手段)

本発明は上記課題を解決するため、自動車のボデーを電流によって発光する素材を用いて成形したものである。

又、少なくとも前後のフェインダーの部分のみを発光する素材で形成することもできる。

ボデーの各パーツへ選択的に電気が流れるように設定し、ボデーを全体的に又は部分的に発光可能とし、電流を強弱調節することで発光明度をも変化可能にするものである。

〔 作用 〕

ボデーは電流によって発光する素材で形成されているものであるから、ボデーへ電気を流せばボデーは発光し、夜間であればボデー全体(自動車全体)が光り輝き、自動車の大きさを認識させる作用をなす。

又、部分的に電流を通せば一部分のみが発光し、又電流に強弱をつけて通すことにより部分的に明度を違わすこともでき、色彩を違わすことにより各目的の発光を選択的に行える。

更に、前後のフェインダーの部分点を減させることにより、方向指示作用を行えるものであり、前・後・側方から認識できる広い部分を利用できるものである。

〔 実施例 〕

電気によって発光する素材としては、例えば、

発光ダイオード板を使用してボデーを形成する。

ボデーは、ボンネット部(1)、フェインダー部(2)、トランク部(4)、ルーフ部(5)、前後面部(6)(7)の各部に従来通り分割して形成され、各部へ内蔵したバッテリーから電気を供給できるように配線し、各回路の開閉を操作可能とする。

フェインダー部(2)は点滅可能とし、方向指示として利用する。

前面部(6)にはライト(8)を従来通り設け、後面部(7)は全面又は部分的にブレーキ作動用として発光を明暗できるようにしている。

〔 発明の効果 〕

以上の様に本発明は、ボデーを電気によって発光する素材で形成したことにより、自動車全体を発光させ、夜間に於ける存在を周囲は勿論のこと、遠方からも確実に大きさまで確認できる効果を有し、事故の防止を期待でき、周囲を明るくするため運転も容易となるものである。

又、方向指示燈やブレーキ制動燈をボデーの任意部分を利用し、且つ、広さも自在となり、警告、

表示効果を増大させるものである。

特に、フェインダー部を方向指示燈に利用することにより、側方の二輪車や歩行者への注意を十分にひくものである。

4. 図面の簡単な説明

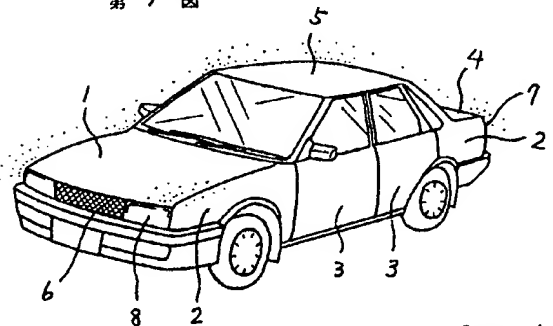
第1図はボデー全体を発光素材で形成した自動車の斜視図、第2図はフェインダー部のみ発光素材で形成した自動車の斜視図である。

符 号

(2)はフェインダー部

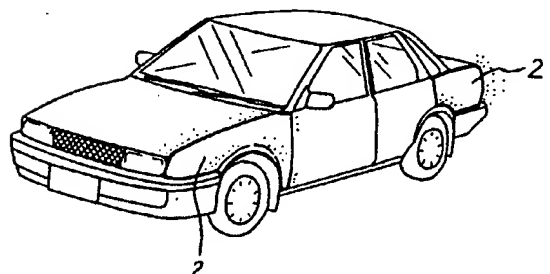
(8)はライト

第 1 図



2...フェインダー部  
8...ライト

第 2 図



特 許 出 願 人 松 本 卓 也  
代 理 人 宮 田 正 道  
同 宮 田 庄 太 郎

